

～学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業の取組事例～

いわき・わくわく「しごと塾」(福島県いわき市)

取組の概要

○市内の小学4年生から6年生を対象として、市内6地区の公民館において、いわき市を代表する産業や地域における個性豊かな職業に従事されている方々を講師に 迎えた職業体験と、体験した内容をアーティストとともに検証しながら作品化するワークショップや、その成果を発表し、自分たちの未来やいわきの未来について 語り合う「いわき・わくわくキッズミーティング」を開催する。

実施内容

実施場所	職業体験内容	ワークショップ内容
小名浜公民館	染職人と「大漁旗」を作成	作成した「大漁旗」の物語を絵本にする
勿来公民館	震災後、先駆けて店を開いたスーパーへの取材、探検	取材内容を基に、お芝居を作り、発表
中央公民館	新聞社の一日を体験	心に残っている職業体験を再取材し、映画をつくる
久之浜公民館	道の駅の職場見学、職業体験	体験したことを漫画作品に仕上げる
上遠野公民館	鍛冶、竹細工、木桶、藁細工を体験	体験したことをマイムで演じ、発表
三和公民館	大工体験	心に残っていることを音にして一つの曲にする

期待される効果

- ・様々な職業に触れることで、また、第一線で活躍している方々の話を聞くことで、子どもたちの将来に夢と希望を与えるとともに、困難な状況の中で、それを克服し成長していくためのヒントを学ぶ機会となる。
- ・体験活動への参加により、子どもの思考力や判断力、表現力が培われるとともに、実際に働いている大人に直接触れ社会に参加することで、子どもたちの中に勤労観や職業観が育まれ、今後のいわきの復興を担い、実行していく人材、また、地域の枠を超えグローバルに活躍する人材の育成に繋がっていく。
- ・学校や学年の異なる友達との交流や集団生活を通して、子どもたちに協調性や自主性、他者を思いやる心などが養われる。また、大人と子どもの交流により、地域の絆が深まり、地域コミュニティの再生・強化が図られるとともに、大人も子どもと向き合い、お互いがかわり合うことで、子どもの生き方のモデルとなる大人が育まれるなどの人づくりが行われる。



上遠野公民館チラシ



竹細工体験